

1. 命を守る基盤の整備

3. 伊里前中心市街地の復興

- 伊里前地区は合併前の旧歌津町の中心市街地であり、住居を兼ねた店舗や事業所が多数あった。
- 震災により災害危険区域に指定され、集団高台移転した住居跡地を再編して、新たな「商業・公益エリア」として整備した。
- 「商業・公益エリア」には、かつての個人店舗などが入居する商業施設や交流施設を整備した。

伊里前地区の復興計画

伊里前地区は合併前の旧歌津町の中心部であり、伊里前湾に面した国道45号沿道には公共施設・商業施設・住宅地など歌津地区の都市機能が集まっていた。この低地部一帯は津波で被災したため、災害危険区域に指定し、居住禁止区域とした。

町は、防災集団移転促進事業によって住宅高台移転を実施し、低地部に新たな中心市街地を整備する方針を立てた。震災復興計画の「命を守る土地利用への転換」に基づき、嵩上げ造成を行うとともに、防潮堤の整備など、漁港・水産施設の防災機能強化を図ることとした。

伊里前地区の整備計画は、平成27(2015)年5月27日の伊里前まちづくり協議会総会において、国、県及び町から関係者約40名が出席して説明された。

国からは、国道45号について、伊里前川を横断して山側へとルート変更する計画が示された。県からは、

「伊里前川の河川堤防については計画を年内に県議会に提案する予定であり、海岸防潮堤については年内に発注の見込み」であることが示された。

町からは、盛土計画について、まず、高台の平成の森に整備予定の歌津総合支所造成工事の発生土を利用して、公民館跡地に整備予定の漁協歌津支所用地から開始すること。商店街の本設地は、三陸道工事の発生土を利用して5,170㎡を盛土、平成28(2016)年度の伊里前商店街のオープンを目指して整備する計画であること。活用計画の定まっていない国道45号の海側の「土地利用活用検討用地」2,130㎡も、約5m(海拔約7m)嵩上げすることを説明した。

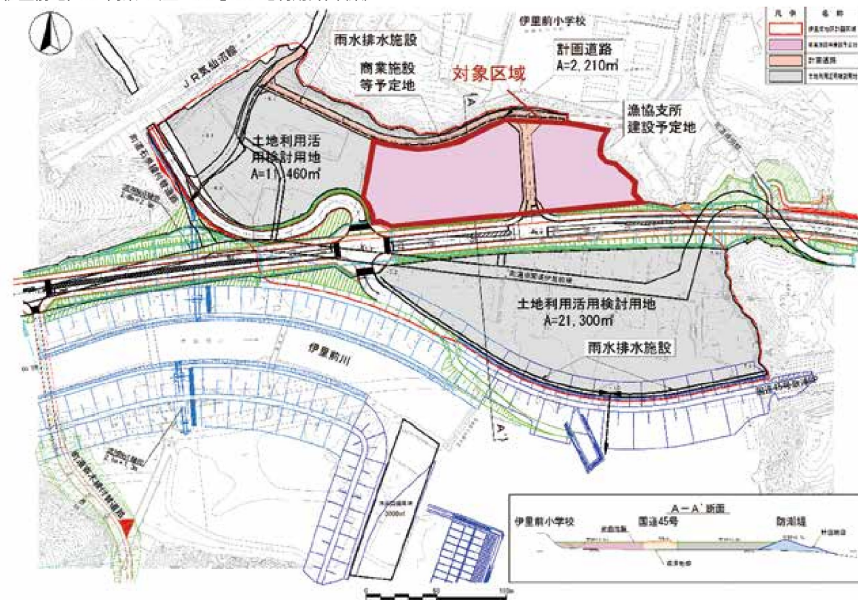
伊里前まちづくり協議会で先行して発表されたこの計画の全体像は、9月に「南三陸町まちなか再生計画」として公開された。

「まちなか再生計画」では、商業ゾーンの土地利用に「商業・公益エリア」と「土地利用活用検討エリア」の土地利用区分を設定した。このうち「土地利用活用検討エリア」には多くの民有地が含まれるため、復興後に事業用地として誘致を行うこととした。防災集団移転促進事業に伴い町有地となった「商業・公益エリア」には商業・公益機能、交流機能を集積し、背後の小中学校や既存集落を含めてコンパクトな市街地の形成を図った。

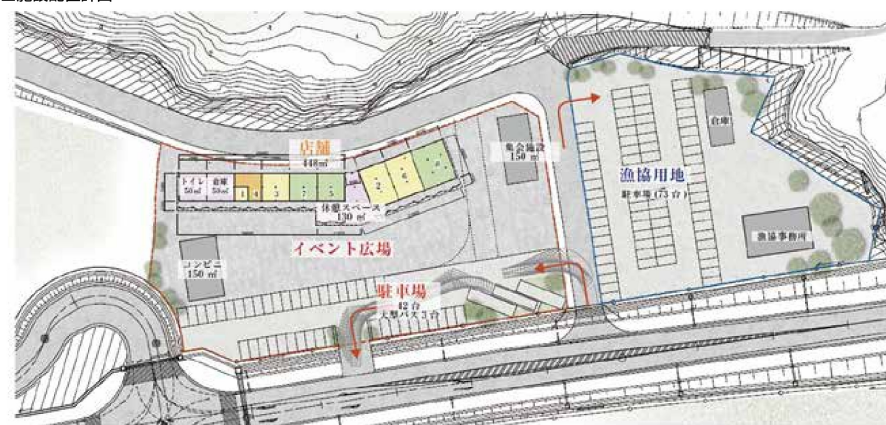


震災前の伊里前商店街・三嶋神社

■伊里前地区の「商業・公益エリア」の土地利用計画(案)



■施設配置計画



■歌津地区の土地利用 ゾーン別方針(「第2次南三陸町土地利用計画」より)

ゾーン名称	方針
居住ゾーン	・高台の住宅地や公共施設周辺を造成し、より安全な居住地を形成する区域
公共公益ゾーン	・総合支所等の重要な公共施設を高台に移転集約する区域
水産・観光ゾーン	・水産業の再生に必要な作業場・水産加工施設・産直施設等を効果的に配置する区域
商業ゾーン	・食料品や日用品の販売等日常的な生活サービスを支える店舗が並ぶ区域
土地利用検討ゾーン	・将来の土地利用需要の動向を見ながら利用を検討していく区域
農地・自然ゾーン	・浸水した農地の再生等自然的土地利用を推進する区域
道路・駅	・災害に強い国道45号の整備を行うとともに、高台住宅へのアクセス道路を強化する。 ・歌津駅(JR気仙沼線)を交通広場とともに配置する。

※南三陸町災害危険区域条例に基づく居住等の利用の制限がある。

第1章 安心して暮らし続けられるまちづくり

「南三陸ハマーレ歌津」の開設

震災前の中心市街地には商店街が形成されており、その店主有志によって、平成23(2011)年12月から仮設「伊里前福幸商店街」として営業を再開していた。「商業・公益エリア」では、この商店街の個人店舗などがまとまって営業できる商業施設を整備し、交流施設や多目的広場などを併設することで、町内外から人々が集う魅力ある交流拠点の形成を図った。

また、同エリア内に漁協施設を整備して、漁港エリアとともに水産業の基盤を固め、将来的に「土地利用活用検討エリア」に誘致する企業を含めて地域産業拠点の形成を図った。

平成28(2016)年2月から「商業・公益エリア」の嵩

上げを開始するため、同エリアで営業していた仮設商店街を、いったん国道45号の南側に移設した。

嵩上げされた造成地には、民間が商業施設を整備して商店街機能を集約することとし、平成29(2017)年4月に「南三陸ハマーレ歌津」としてオープンした。続いて12月に、ハマーレ歌津交流施設「かもめ館」を開設、さらに復興が進んだ令和5(2023)年4月には、多目的広場「南三陸ハマーレ広場」を開設した。

これらの施設によって伊里前地区に中心市街地を形成し、周辺の高台に整備した住宅地（既存団地・防集団地・災害公営住宅）や公共施設（歌津総合支所・保健センター・公民館など）と連携させることで、歌津地区全体の都市機能を構築した。

南三陸ハマーレ歌津

歌津地区における中心市街地形成のコアとなる施設として、伊里前福幸商店街の機能を再編整備し、平成29年4月23日にオープンした。

施設は南三陸さんさん商店街と同じく、借地した町有地に株式会社南三陸まちづくり未来が整備して一括保有し、各テナントに賃貸している。

地域住民の生活を支える商店街というだけでなく、町の「まちなか再生計画」において、志津川地区の「南三陸さんさん商店街」とともに観光・交流の拠点としての役割を担う。

設計は、志津川地区の復興まちづくりランドデザインを手がけた世界的建築家・隈研吾氏によるもので、地元産「南三陸杉」を用いた木造平屋の店舗棟や、海が一望できる明るい軒下空間など、伊里前の里山と海に溶け込んだデザインが特徴である。

公募によって決定した施設名称は、「来て！ハマーって！一緒に仲間になろう」という呼びかけと「浜」「マーレ（イタリア語の海）」を表現している。



南三陸ハマーレ歌津



南三陸ハマーレ歌津



ハマーレ歌津交流施設「かもめ館」



かもめの本屋さん

南三陸ハマーレ広場

ハマーレ歌津から国道45号を挟んで南側に整備し、令和5年4月23日にオープンした多目的広場。海に面した約1.2haを4mから5mかさ上げ造成して、ふわふわドームなどの大型遊具(株式会社 阿部伊組寄贈)や慰霊モニュメントを設置した。

子どもたちの遊び場や人が集う屋外の公共スペースとしての機能を効果的に活用するため、ハマーレ歌津やかもめ館と連動したイベントなどを開催できる「にぎわい創出の場」としての役割も持たせた。



南三陸ハマーレ広場



ハマーレ歌津交流施設「かもめ館」

南三陸商工会が交流拠点としての効果を促進する施設として、ハマーレ歌津に併設して整備し、平成29年12月9日にオープンした。

休憩施設・調理施設を備え、さまざまなイベントやワークショップの開催会場となっている。施設内では、震災で歌津から流出して1年9カ月後に沖縄県西表島に漂着した「郵便ポスト」や、魚竜化石の展示のほか、感動をつなぐプロジェクト「かもめの本屋さん」の運営も行っている。

1. 命を守る基盤の整備

4. 新たな住まいの場～高台移転の成果

歌津地区



災害公営名足住宅



完成日	平成26年7月31日
施工場所	南三陸町歌津字北の沢地内
工期	平成24年12月14日～平成26年7月31日 ※設計・施工
施工業者	UR都市機構、木造協 ※買取
整備戸数	33戸（RC造：28戸、木造：5戸）

災害公営栢沢住宅



完成日	平成27年1月15日
施工場所	南三陸町歌津字栢沢地内
工期	平成25年11月16日～平成27年1月15日 ※設計・施工
施工業者	大和ハウス工業株式会社 ※公募型買取
整備戸数	20戸（軽量鉄骨造 3階建：20戸）

災害公営伊里前住宅



完 成 日 平成28年3月17日
 施工場所 南三陸町歌津字伊里前地内
 工 期 平成26年4月1日～平成28年2月29日
 施工業者 宮城県 ※業務委託
 整備戸数 60戸（RC造：50戸、木造：10戸）

港地区 堺団地



完 成 日 平成26年3月31日
 施工場所 南三陸町歌津字港ほか
 面 積 約0.6ha
 工 期 平成25年6月5日～平成26年3月31日
 施工業者 阿部藤建設株式会社
 整備戸数 7戸

港地区 長羽団地



完 成 日 平成26年3月31日
 施工場所 南三陸町歌津字港地内
 面 積 約0.6ha
 工 期 平成25年6月5日～平成26年3月31日
 施工業者 阿部藤建設株式会社
 整備戸数 7戸

田の浦地区 田の浦団地



完 成 日 平成27年3月20日
 施工場所 南三陸町歌津字田の浦地内
 面 積 約1.6ha
 工 期 平成25年9月14日～平成27年3月20日
 施工業者 フジタ・佐千代組特定建設工事共同
 企業体
 整備戸数 23戸

石浜・名足地区 石浜・名足団地



完成日 平成26年12月15日
施工場所 南三陸町歌津字北の沢地内
面積 約0.7ha
工期 平成26年1月30日～平成26年12月15日
施工業者 山荘建設株式会社
整備戸数 7戸

馬場・中山地区 名足保育園南団地



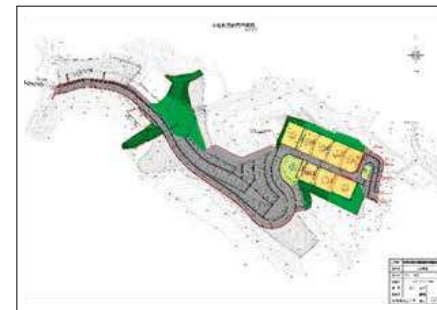
完成日 平成26年9月30日
施工場所 南三陸町歌津字小長柴地内
面積 約0.9ha
工期 平成25年9月14日～平成26年9月30日
施工業者 フジタ・佐千代組特定建設工事
共同企業体
整備戸数 9戸

馬場・中山地区 生活センター西団地



完成日 平成26年10月31日
施工場所 南三陸町歌津字馬場地内
面積 約1.6ha
工期 平成25年9月14日～平成26年10月31日
施工業者 フジタ・佐千代組特定建設工事
共同企業体
整備戸数 14戸

泊浜地区 泊浜団地



完成日 平成26年11月30日
施工場所 南三陸町歌津字田の頭ほか
面積 約1.4ha
工期 平成25年11月16日～平成26年11月30日
施工業者 株式会社只野組
整備戸数 8戸

館浜地区 館浜団地



完 成 日 平成27年1月30日
 施工場所 南三陸町歌津字館浜ほか
 面 積 約2.3ha
 工 期 平成25年11月16日～平成27年1月30日
 施工業者 株式会社只野組
 整備戸数 19戸

伊里前地区 栢沢団地



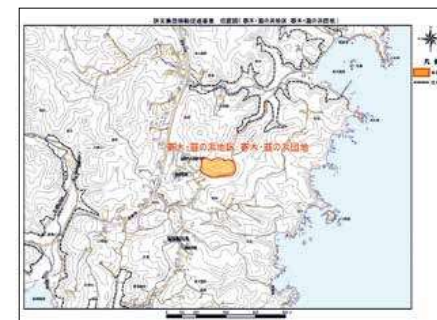
完 成 日 平成29年3月6日
 施工場所 南三陸町歌津字峰畑ほか
 面 積 約4.6ha
 工 期 平成25年11月16日～平成28年3月31日
 施工業者 岩田地崎建設・サトー工務店
 特定建設工事共同企業体
 整備戸数 53戸

伊里前地区 中学校上団地



完 成 日 平成29年3月6日
 施工場所 南三陸町歌津字伊里前ほか
 面 積 約6.4ha
 工 期 平成25年11月16日～平成28年2月29日
 施工業者 株式会社アルファー建設
 整備戸数 51戸

寄木・葦の浜地区 寄木・葦の浜団地



完 成 日 平成26年10月30日
 施工場所 南三陸町歌津字寄木ほか
 面 積 約2.5ha
 工 期 平成25年3月9日～平成26年10月30日
 施工業者 鴻池組・山庄建設
 特定建設工事共同企業体
 整備戸数 40戸

志津川・入谷地区



志津川地区 災害公営志津川東住宅



使用開始日 平成29年1月10日
 施工場所 南三陸町志津川字沼田地内
 工期 平成27年3月9日～平成29年1月10日
 施工業者 UR都市機構
 整備戸数 265戸（RC造：247戸・木造：18戸）

志津川地区 災害公営志津川中央住宅



使用開始日 平成29年3月21日
 施工場所 南三陸町志津川字新井田地内
 工期 平成27年11月24日～平成29年2月28日
 施工業者 UR都市機構
 整備戸数 147戸（RC造：115戸・木造：32戸）

志津川地区 災害公営志津川西住宅



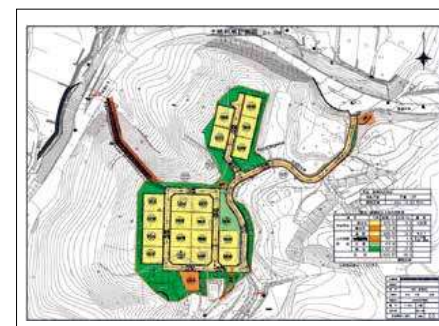
使用開始日 平成29年1月10日
 施工場所 南三陸町志津川字廻館、田尻畑地内
 工期 平成27年7月1日～平成28年12月14日
 施工業者 宮城県 ※業務委託
 整備戸数 82戸（RC造74戸・木造8戸）

入谷地区 災害公営入谷住宅



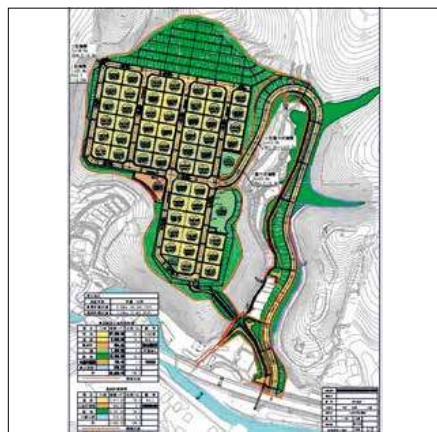
完成日 平成26年7月31日
 施工場所 南三陸町入谷字桜沢地内
 工期 平成24年12月14日～平成26年7月31日
 ※設計・施工
 施工業者 UR都市機構、木造協 ※買取
 整備戸数 51戸（RC造：42戸、木造：9戸）

志津川 西田・細浦地区 西田・細浦団地



完成日 平成26年9月30日
 施工場所 南三陸町志津川字西田地内
 面積 約1.6ha
 工期 平成25年8月13日～平成26年9月30日
 施工業者 株式会社太田組
 整備戸数 19戸

志津川 清水地区 清水団地



完 成 日 平成28年4月11日
 施工場所 南三陸町志津川字内井田地内
 面 積 約4.1ha
 工 期 平成25年12月18日～平成28年3月25日
 施工業者 三井住友
 阿部藤特定建設工事共同企業体
 整備戸数 54戸

志津川 荒砥地区 荒砥団地



完 成 日 平成26年1月31日
 施工場所 南三陸町志津川字平貝地内
 面 積 約0.6ha
 工 期 平成25年6月6日～平成26年1月31日
 施工業者 株式会社タカノ鐵工
 整備戸数 6戸

志津川 平磯地区 平磯団地



完 成 日 平成26年1月31日
 施工場所 南三陸町志津川字深田地内
 面 積 約0.4ha
 工 期 平成25年6月6日～平成26年1月31日
 施工業者 株式会社沼正工務店
 整備戸数 6戸

志津川 袖浜地区 袖浜団地



完 成 日 平成26年2月28日
 施工場所 南三陸町志津川字袖浜地内
 面 積 約0.5ha
 工 期 平成25年6月6日～平成26年2月28日
 施工業者 株式会社須藤建設
 整備戸数 5戸

志津川地区 志津川東団地



完 成 日 平成28年11月10日
施工場所 南三陸町志津川字沼田ほか
面 積 東工区：約10.9ha
 北・西工区：約19.4ha

実施期間
【東工区】平成25年4月26日～平成27年4月30日
 (契約期間；平成25年4月26日～平成28年3月31日)
【北・西工区】平成25年11月16日～平成28年10月31日
 (契約期間；平成25年11月16日～平成29年9月30日)

施工業者 UR都市機構 (CM方式)

整備戸数 154戸

志津川地区 志津川中央団地



完 成 日 平成29年1月10日
施工場所 南三陸町志津川字新井田地内

面 積 約17.3ha

実施期間 平成25年11月26日～平成28年12月31日
 (契約期間；平成25年11月16日～平成29年9月30日)

施工業者 UR都市機構 (CM方式)

整備戸数 135戸

志津川地区 志津川西団地



完 成 日 平成28年11月10日

施工場所 南三陸町志津川字廻館ほか

面 積 約8.3ha

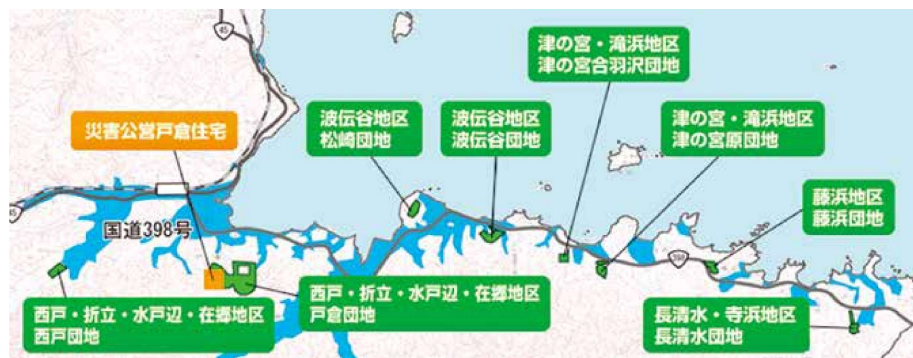
実施期間 平成25年11月16日～平成28年10月31日
 (契約期間；平成25年11月16日～平成29年3月31日)

施工業者 UR都市機構 (CM方式)

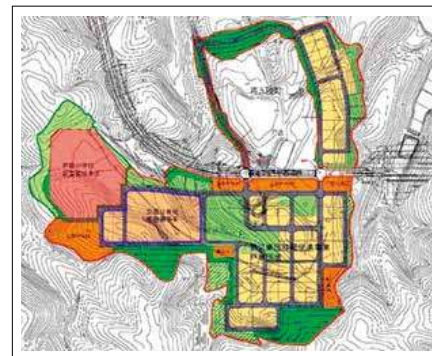
整備戸数 70戸



戸倉地区



災害公営戸倉住宅



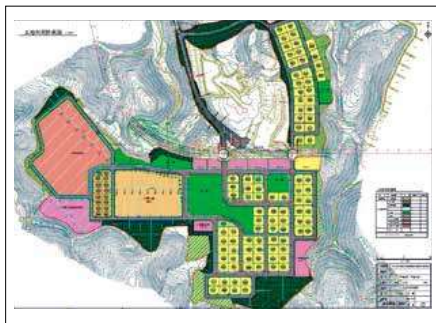
完 成 日 平成28年3月17日
 施工場所 南三陸町戸倉字宇津野地内
 工 期 平成26年5月9日～平成28年2月29日
 施工業者 宮城県 ※業務委託
 整備戸数 80戸（RC造：70戸、木造：10戸）

西戸・折立・水戸辺・在郷地区 西戸団地



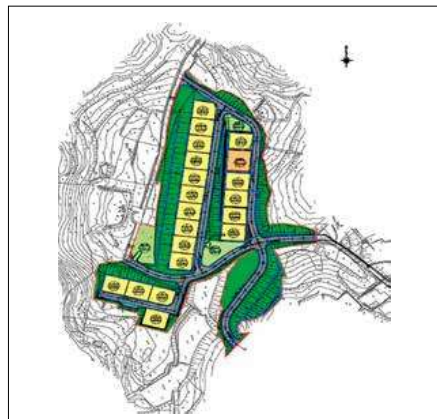
完 成 日 平成27年4月15日
 施工場所 南三陸町戸倉字日向地内
 面 積 約0.7ha
 工 期 平成25年12月18日～平成27年3月25日
 施工業者 清水・遠藤特定建設工事共同企業体
 整備戸数 7戸

西戸・折立・水戸辺・在郷地区 戸倉団地



完 成 日 平成29年3月6日
 施工場所 南三陸町戸倉宇津野地内
 面 積 約11.3ha
 工 期 平成25年12月18日～平成28年3月25日
 施工業者 清水・遠藤特定建設工事共同企業体
 整備戸数 84戸

波伝谷地区 松崎団地



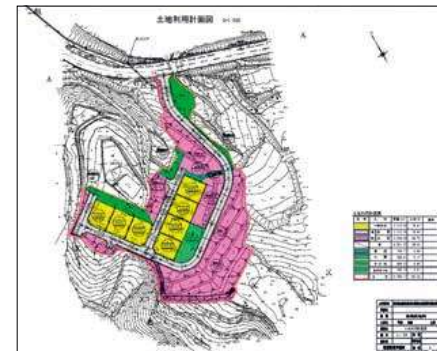
完 成 日 平成26年12月25日
 施工場所 南三陸町戸倉宇津野地内
 面 積 約2ha
 工 期 平成25年11月19日～平成26年12月25日
 施工業者 みらい・須藤特定建設工事共同企業体
 整備戸数 19戸

波伝谷地区 波伝谷団地



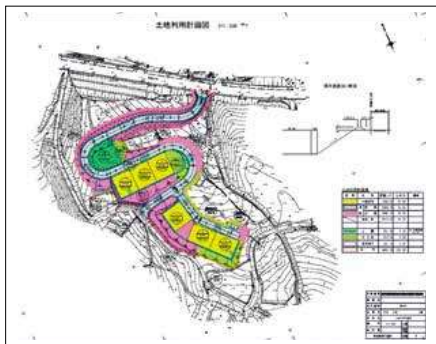
完 成 日 平成26年11月28日
 施工場所 南三陸町戸倉宇津野地内
 面 積 約1.4ha
 工 期 平成25年11月19日～平成26年11月28日
 施工業者 みらい・須藤特定建設工事共同企業体
 整備戸数 13戸

津の宮・滝浜地区 津の宮合羽沢団地



完 成 日 平成26年9月25日
 施工場所 南三陸町戸倉宇津野地内
 面 積 約1.3ha
 工 期 平成25年8月13日～平成26年9月25日
 施工業者 株式会社只野建設
 整備戸数 7戸

津の宮・滝浜地区 津の宮原団地



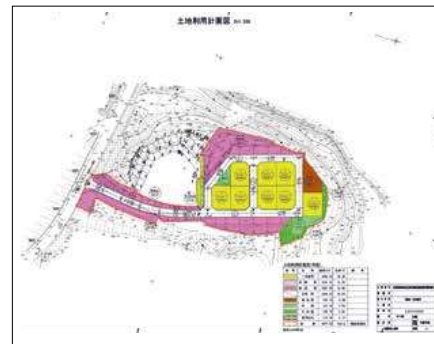
完 成 日 平成26年12月25日
 施工場所 南三陸町戸倉字津の宮地内
 面 積 約1.0ha
 工 期 平成25年11月19日～平成26年12月25日
 施工業者 みらい・須藤特定建設工事共同企業体
 整備戸数 6戸

藤浜地区 藤浜団地



完 成 日 平成25年12月13日
 施工場所 南三陸町戸倉字藤浜地内
 面 積 約1.0ha
 工 期 平成25年1月31日～平成25年12月13日
 施工業者 株式会社サトー工務店
 整備戸数 10戸

長清水・寺浜地区 長清水団地



完 成 日 平成27年6月1日
 施工場所 南三陸町戸倉字小細谷地内
 面 積 約1.0ha
 工 期 平成25年12月18日～平成27年5月31日
 施工業者 清水・遠藤特定建設工事共同企業体
 整備戸数 8戸

1. 命を守る基盤の整備

5. 漁港の再建と防災機能強化

- 町内にある23漁港の漁港施設及び海岸保全施設は津波で壊滅的な被害を受け、漁業の継続が困難となった。
- 津波による破壊と地盤沈下の両方に対処するために、背後用地も含めて用地の嵩上げを行った。
- 各漁港ごとに避難道路や防災安全施設を整備し、漁港の防災機能の強化を図った。

漁港の被害と復旧

町内には町管轄で比較的小規模な第1種漁港が19港、県管轄で拠点的な位置付けの第2種漁港が4港あったが、それらの漁港や関連施設は全て津波によって全壊、流出、決壊、あるいは一部損壊して失われた。

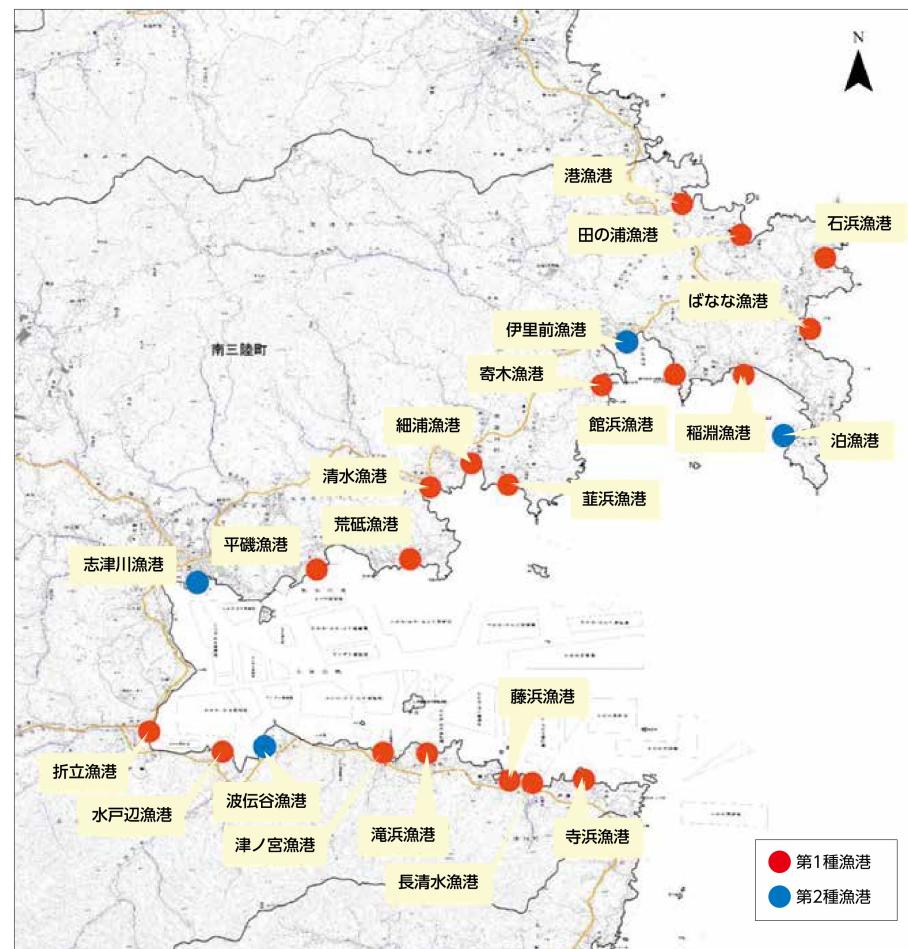
第2種漁港の1つで町の漁業にとって最大の拠点でも

あった志津川漁港は、21.5mの津波を受けて3箇所あった水門全てが全壊、堤防も全て流出・決壊する大被害となった。

同じく第2種漁港の伊里前漁港、泊漁港、波伝谷漁港でも、水門や堤防、護岸等が甚大な被害を受けた。第1種漁港の19港も同様に甚大な被害を受けた。

津波の衝撃による被害に加えて、地盤沈下も深刻だった。地盤沈下の影響による高潮や津波等の被害を新たに想定する必要がある上に、防潮堤や道路の建設と漁港背後用地の嵩上げの工事計画の調整が課題となった。

■南三陸町漁港施設位置図



復旧した岸壁(折立漁港)



防潮堤の被害(折立漁港)



岸壁及び防波堤の被害(藤浜漁港)

第1章 安心して暮らし続けられるまちづくり

海岸・漁港施設の復旧と防災機能の強化

基幹産業である水産業を一刻も早く再開させるために、町は国や県と連携して漁港岸壁や防潮堤等の復旧に取り組み、平成23(2011)年度末までに町内23の漁港は全て、潮位に関わらず岸壁の使用が可能となった。さらに、背後用地も含めた漁港全体の嵩上げ工事を実施するとともに、漁港機能の復旧と防災対策のための各種工事を進めて、水産業の復興と活性化の基盤を整備した。

● 漁港施設等災害復旧事業

東日本大震災の地震と津波によって町内全ての漁港施設等が沈下及び流出した。町は沈下した漁港施設等の地盤を嵩上げするとともに、流失した漁港施設等の原形復旧を行うため、第1種漁港の19漁港と14の漁港海岸を対象に「漁港施設等災害復旧事業」を実施した。

平成23年度に事業を開始して、令和4(2022)年度に完了した。総事業費は65億6,000万円で、漁港施設災害復旧事業費国庫負担金で実施した。



高潮対策事業で新規整備した堤防(稲淵漁港)



嵩上げた用地(田浦漁港)

● 防潮堤整備事業

町が管理する第1種漁港全てで、防潮堤等の海岸保全施設が被害を受けた。さらに、津波対策の見直しによって防潮堤の新設が必要になった場所も生じた。町は、数十年から百数十年に一度程度発生する比較的頻度の高い津波に対処するための「L1対応」の防潮堤を整備し、震災前よりも漁港の防災機能を強化した。

事業は平成24(2012)年度に開始、令和4年度に完了した。総事業費は253億円で、災害復旧事業を主な財源としたほか、農山漁村地域整備交付金も活用した。

● 漁港施設機能強化事業

各漁港の防潮堤や護岸等の公共の漁港施設は、災害復旧事業により嵩上げ等の復旧整備が行われた。しかし、漁港施設の背後用地の地盤も沈下していたため、そのままでは漁業者が漁業再開のために番屋や物揚場等の施設を復旧することに不都合があった。そのため、町は県と防潮堤の位置や工事計画を事前に確認するなど各漁港の災害復旧事業との調整を図りながら、平成24年度に漁港施設の背後用地の嵩上げを開始した。



高潮対策事業によって被災した防潮堤に隣接して新規に整備した堤防(津ノ宮漁港)



災害復旧事業で整備した物揚場及び防舷材(荒砥漁港)

事業は12漁港については県の間接補助、3漁港については直接補助で行い、令和2(2020)年度に完了した。総事業費は2億8,000万円で、財源の4分の3を復興交付金(C-6)漁港施設機能強化事業、4分の1を震災復興特別交付税とした。

● 漁業集落防災機能強化事業

東日本大震災を受け、低地部にあった各漁業集落は防災集団移転等により住居を高台に移転した。しかし、漁業を継続していくためには漁業の拠点である漁港の防災機能強化が必要となった。

そこで、2種漁港の4漁港7地区と1種漁港の19漁港21地区を合わせた計28地区について、漁港集落内の漁業集落道整備、防災安全施設等整備、避難通路整備等の施策を実施、各漁業集落の防災機能を整備し、集落及び漁業の復興を進めた。事業は平成26(2014)年度に始まり、令和4(2022)年度に完了した。本工事費に用地費や測量試験費等を加えた総事業費は約16億3,200万円で、財源の4分の3を復興交付金(C-5)漁業集落防災機能強化事業、4分の1を震災復興特別交付税とした。



漁業集落防災機能強化事業で整備した弾性梯子(平磯漁港)



災害復旧事業で整備した物揚場及び防舷材(細浦漁港)

● 漁港施設整備事業

水産業の活性化を図るために、町内23漁港において作業の安全確保や経営の安定化に寄与する各種の漁港施設及び海岸保全施設を整備した。具体的には、沖防波堤や消波施設、陸間、防舷材設置、物揚場、臨港道路の整備等、多岐にわたる。震災前に採択されて進めていたが震災のため中断した国の国庫補助事業(地域水産物供給基盤整備事業)を、平成27(2015)年度に再開し、令和3(2021)年度に完了している。



再整備した漁港台帳。漁港台帳は漁港の管理に不可欠であるが、震災で全ての漁港の漁港台帳が流失した。



沖防波堤(ばな漁港)



陸間(寄木漁港)